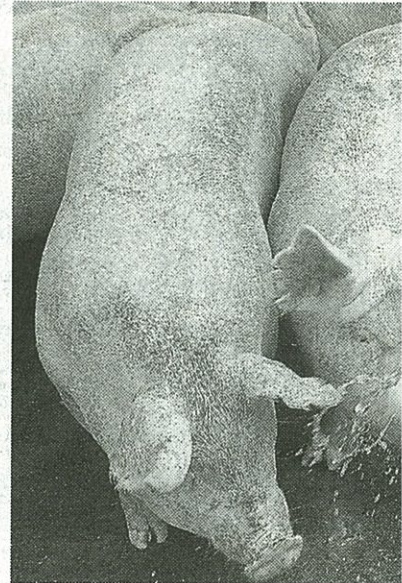


を注視しているという。白井専務は、海外市場について「経済成長が著しいアジアは、日本と距離も味覚も近く、脂肪が柔らかく甘みがある桃豚豚は好まれる。互いのよい文化を取り入れ、いい関係を一つついでいきたい」と話す。

一方、伊勢原市の酪農家、



白井農産が育てた桃豚

長・茂木友三郎キッコーマン(名譽会長)は25日、農林水産物と加工食品の新たな輸出戦略を取りまとめた。これまで産地ごとにばらばらだった売り

輸出戦略のポイント

- 売り込み体制を品目ごとにと「ジャパン(日本)ブランド」として一本化
- 有望な輸出プロジェクトを官民ファンドで支援
- 輸出事業者支援で日本貿易振興機構(ジェトロ)の役割を強化
- 原発事故の対応で、PRやイベントを通じて日本食品の安全性確保の取り組みを発信
- 海外でも通用する国際的な食品安全基準の導入を推進
- 輸出額1兆円を目指すとの政府目標の達成時期を再検討

武松商事 (横浜市)

は千葉県香取市に養豚場を開設した。畜産業への進出にあたり、鹿児島県の農家に社員を派遣し、直接手ほどきを受けたという。また「土着リサイクルの規模を拡大させるため、肉質向上とあわ

廃棄物収集運搬業の武松 集運搬と再利用処理を別々商事(横浜市中区)は食品の業者が担うケースが多かりサイクルの一環で畜産業を展開している。食品廃棄物を飼料に加工し、自社で経営する養豚場で活用。育てた豚は食肉として市場へ出荷し、昨年の販売実績は2千頭に達した。食品リサイクルの独自の仕組みづくりに挑む。

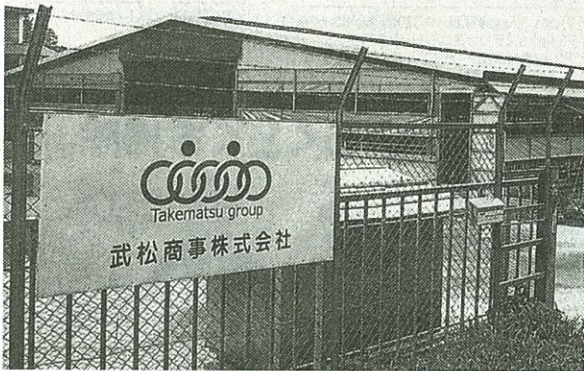
食品廃棄物を再利用

とで、コストを抑えたりサイクルを顧客に提案できるようにした(同社)

家庭や事業所から出る廃棄物の収集運搬などを行っていた。畜産業の展開は、2001年の食品リサイクル法の施行がひとつの契機。当時、リサイクルは収

いられる手法でもあったことなどから、廃棄物を飼料に加工して再利用する仕組みを採用。管理がしやすいとされる豚を選んだ。また食品リサイクルを本格展開する前に、飼料の安全性などを確かめるため、04年に

◆武松商事 廃棄物収集運搬業、古紙リサイクル、養豚事業・食品のリサイクル、引越し業務など。1976年5月創立。従業員224人。横浜市中区山下町106。



畜産業展開の拠点で豚舎がある同社の佐原営業所 千葉県香取市

に力を入れることが柱。福島第一原発事故後の輸出の停滞から、巻き返しを目指す。環太平洋連携協定(TPP)の交渉参加方針を受け、海外に販路を広げ、国内農業の基盤強化を図る狙いもある。筒井信隆副大臣は「価格はある程度高くても、安全で味のよい日本産食品を求める志向に

座間にコストコ

来月、オープン米コストコの日本法人コストコホールセールジャパン(川崎市川崎区)は12月10日、座間市東原1丁目に座間倉庫店をオープンする。県内で3番目で、国内では12店舗目となる。店舗面積は1万3200平方メートル。日産自動車座間工場の跡地で、工場時代は完成車置き場として使われていた。

商品をパレットに載せたまま陳列、会員制で小売りする。オープン前日まで入会金を千円割引く早割キャンペーンを実施。個人会

農水省が一定の官民するほか、(シエトロ)して事業者千代田化加熟炉イラク総合エソ手の千代日、イラク部製油所今イシ製油所員32000円(同36円)同跡地にーと食品スンしている有名スイ

挑む 中小企業